

桜奉行

幕末奈良を再生した男・川路聖謨

直木賞作家 出久根達郎 著 (本誌「時代を駆け抜けた偉人たち」著者)

養徳社 定価1,800円(本体)

幕末期の日露和親条約締結時、北方領土の国境策定に活躍した川路聖謨としあきらは、ロシア側使節から「ヨーロッパでも珍しいほどのウィットと知性を備えた人物」と評価された。その彼の人となりを知ることができる小説である。

5年半の奈良奉行時代を、彼の日記を底流に描き出す。桜は枯れ寺社は荒れ、人心も荒む奈良を、どのように再建したか。人材起用、産業振興、桜楓の大植樹運動など、いまの奈良の礎を作ったと言える施策の進め方にも注目したい。連載小説の単行本化の第一弾。

